

HIROSHIMA APPEALS

第16回亀倉雄策賞受賞記念 葛西薫展「ヒロシマ・アピールズ」

2014年4月8日(火)～5月15日(木)

11:00a.m.～7:00p.m. / 日曜・祝日と、4月27日(日)～5月6日(火)は休館 / 入場無料

主催：クリエイションギャラリー G8 / 共催：公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会・亀倉雄策賞事務局
クリエイションギャラリー G8 〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17 リクルートGINZA8 ビル1F
TEL 03-6835-2260 <http://rcc.recruit.co.jp/>

Creation
GALLERY
G8





初めて知ったグラフィックデザイナーの名は亀倉雄策だった。中学二年のある日、体育館に東京オリンピックの2枚のポスターが貼られた。今でもはっきり憶えている。ステージの左には日の丸の、右には短距離走のスタートダッシュの写真のポスター。その日からいつもの体育館の空気が一変し、なんだか外国にいるようだった。このときの興奮が今の自分の仕事につながる初めての出来事だった。数十年が経ち、亀倉さんにお会いしたときにそのことを伝えることができた。亀倉さんと会話ししたのはその一度だけだった。

亀倉さんは第1回のヒロシマ・アペールズの作者でもある。その16作目のポスター制作の指名を受け、僕に何ができるのか、そしてまたポスターに何ができるのか……と緊張し、ずいぶんと苦しんだ。やがて目の前の白い紙を見つめるうちに、その白さが夏の陽のまぶしさに感じてきて、しぜんに筆が動いて止まらなくなった。僕にとっての真夏はいつも短かったが、忘れられない思い出がいっぱいある。青空はときに悲しくもあり、あの人この人の顔が浮かんでくる。この絵は誰かの姿であり僕の姿でもある。今考えると、こうして自分の職業を忘れて僕自身に帰ることで、ヒロシマと向き合うことができたように思う。

このたびの受賞展が少しでも平和の一助になれば、こんなに嬉しいことはありません。

葛西 薫

亀倉雄策賞について

1997年に急逝した亀倉雄策の生前の業績をたたえ、グラフィックデザイン界の発展に寄与することを目的として亀倉雄策賞が設立されました。この賞の運営と選考は公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)が行い、毎年『Graphic Design in Japan』出品作品の中から、年間で最も優れた作品に対して贈られます。

葛西 薫 Kaoru Kasai

1949年北海道札幌市生まれ。1968年文華印刷、1970年大谷デザイン研究所を経て、1973年サン・アド入社、現在に至る。サントリーウーロン茶(1983年～)、ユナイテッドアローズ(1997年～)などの長期にわたる広告制作、虎屋のCI・空間計画・パッケージデザインなどのほか、サントリー、六本木商店街振興組合のCI・サイン計画、映画・演劇の広告美術、装丁など、活動は多岐にわたる。近作にNHKみんなのうた『泣き虫ピエロ』の動画制作、ペーター・ツムトア著『建築を考える』(みすゞ書房)の装丁がある。

東京ADCグランプリ、毎日デザイン賞、朝日広告賞、講談社出版文化賞ブックデザイン賞、東京ADC原弘賞など受賞。著書に『図録 葛西薫1968』(ADP)。JAGDA、東京ADC、東京TDC、AGI会員。

オープニングパーティー 2014年4月8日(火) 7:00p.m.～8:30p.m.

クリエイティブサロン

亀倉雄策氏らを中心に切り拓かれてきた日本のグラフィックデザインを礎に、今日、デザイナーの活動領域は大きく拡がりました。このたび、会期前半に広島より納島正弘氏を、また後半は中島祥文氏と佐野研二郎氏を迎えて、デザインに何ができるのか、表現の苦しみと喜びについて……などなど、世代の違う4人のアートディレクターがおおいに語り合います。

〈その1〉2014年4月25日(金) 7:10p.m.～8:40p.m. 納島正弘、葛西 薫

〈その2〉2014年5月9日(金) 7:10p.m.～8:40p.m. 中島祥文、佐野研二郎、葛西 薫

クリエイションギャラリー G8 入場無料 要予約 (TEL 03-6835-2260)

クリエイションギャラリー G8

〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17 リクルートGINZA8ビル1F TEL 03-6835-2260

<http://rcc.recruit.co.jp/>

